

ただ今議題となっております、日程第1、議案第1号 第5次八幡市基本構想の策定について、日本共産党八幡市議会議員団を代表して反対討論をおこないます。

基本構想では「まちづくりの将来像と基本目標」をうたっています。基本構想についての議論にあたり、第4次総合計画も合わせて目を通してみましたが、総合計画自体がたいへん空虚な議論という印象を持たざるを得ません。10年間の計画でありながら、自治体の財政見通しが不透明であり、今後のまちづくりの方向性を指し示せない限界があると思います。以上の点を指摘した上で、いくつかの点について述べたいと思います。

「基本目標2」は、子どもが輝く「未来のまち やわた」となっており、子育て支援について書かれています。就学前施設として保育、幼稚園、認定子ども園などがありますが、公立保育園、幼稚園では、①来年度、ある公立幼稚園では入園申し込みが極端に減少し、今後の存続の展望が見えない事態が起きています。②保育園の耐震補強、整備が遅れています。こうした問題は、第4次計画やその後の市政運営でも具体的な解決策が示されないまま経過し、第5次計画に先送りされています。これでは、子どもの未来を展望できません。

「基本目標5」は「活力のまち やわた」を掲げ、「都市空間形成の方針」の部分で具体的な考え方が示されています。

高速道路網による交流人口の増加をうたっていますが、南北交通については、道路は整備されるが、南北を結ぶバス路線はない状況が続いています。八幡市駅や橋本駅の整備も具体的な言及はありません。第4次総合計画では、市内南北方向を結ぶバス路線の運行、JR松井山手駅～八幡市～乙訓方面を結ぶ広域的なバス路線の検討、八幡市駅・橋本駅のターミナル化などが書かれていましたが、今回は具体的な記述は姿を消しています。

産業振興などの項目では、高速道路整備に関連して活力ある産業基盤の形成をうたっています。地域の経済づくりでは、「創業支援」が強調されますが、市が、既存の中小企業や商店街を支援する独自の施策を持たない弱点はそのままです。

農地について「豊かな田園環境の維持を図る」とありますが、現在、八幡市のある農地では、農業以外の業種の会社による農地買収があり、配送センターがつくられるなどの話を取りざたされています。こうした問題にたいして、市が毅然とした態度で農地を守る立場がさらに明確にされる必要があります。

「基本目標6」は「安心・安全のまち やわた」です。防災をめぐるっては、学校統廃合から10年がたちましたが、避難場所なのにほとんどが耐震補強はされず、今後の活用計画も示されない状況です。学校跡地の活用については市民参加で、地域に根ざしたまちづくり、公共施設の整備の方向性を作成すべきです。

生活環境に関する項目では、「廃棄物の発生抑制（リデュース）、資源の再使用（リユース）、資源の再生利用（リサイクル）」という言葉が並び、循環型社会の形成をうたっていますが現実とのギャップを感じます。城南衛生管理組合が取り組むプラスチック容器包装リサイクルに、6つの自治体のうち、八幡市だけが隔週の回収にとどめている現状を一刻も早く打開して、毎週の回収に転換することを強く求めます。

短い討論の中で、すべての論点を述べたわけではありませんが、以上が、日本共産党八幡市議会議員団が第5次八幡市基本構想に反対する大きな理由であります。

ご清聴ありがとうございました。